



NEWS

2010 No.231

6月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

高齢者ドライバー向け専用車のニーズ高まる

35道府県の知事連合が取りまとめ、 今年度中にメーカーに提案 基本コンセプトは軽自動車以下サイズで 2人乗りのミニカー

高齢者の自動車利用をどうサポートするか、大きな社会テーマの一つです。全国の知事からは「2人乗りの近距離専用車」を作るべきだとの提案がなされました。アフターマーケットも高齢社会に対応したサービスが求められるようになるのでしょうか。

高齢者向け専用車の提案は、全国35道府県知事で作る「高齢者にやさしい自動車開発推進知事連合」(以下、知事連合、会長＝麻生渡福岡県知事)が行ったものです。知事連合は昨年5月に発足、自動車工学や加齢医学の専門家、自動車メーカーの開発担当者による委員会を設け、高齢社会が必要とする自動車の企画を検討してきました。

日本の高齢化は急激に進んでおり、2020年には高齢ドライバー(65歳以上)は全国で2000万人に達するといわれています。それに伴い高齢ドライバーの交通事故も増加傾向にあります。このため免許の返納制度も登場したのですが、地方では自動車がないと生活できないところが大半で、高齢者が安心して運転できる自動車が求められています。

このため知事連合では、高齢ドライバーの運転特性やニーズについての調査・分析を行い、2人乗りの近距離専用車を高齢者用に作ってほしいと提案しています。高齢者はほとんど高速道路に乗らないため、軽自動車までの大きさは必要ないものの、現在のミニカー(原付自転車)サイズの1人乗りでは不便で、少し大きめにしてほしいということです。

この超ミニサイズの専用車をベースに高齢者の運転特性に合わせたきめ細かな情報提供や車両装備を加えて安全性を高めることにしています。提供する情報は赤信号、一

時停止、死角にいる車など見落としがちなものへの警告、さらにはブレーキ踏力補助装置や衝突回避制御といった事故防止支援機構を付加したり、ミラー

やメーターも見やすいものへ改善したりして専用車にします。知事連合はさらにコンセプトを詰めて、今年度内に自動車メーカーなどに要望していくことにしています。

注目すべき点は、2点あります。ひとつはこうした社会要望が強まった時、道路運送車両法で新しく軽自動車以下のクラスが作られていくのかどうかということです。ふたつ目は今の整備事業の中で高齢者向けサービスをどう位置付けるか、ということです。

車両規格に関して、電気自動車を現行の軽自動車枠以下サイズで廉価に提供し、普及につなげたいとの考えがあります。高齢ドライバーに限らず国内では自動車のトリップ(エンジンを始動して走行、停車するまでの距離)は5km以下が60～80%を占めます(国立環境研究所調査)。つまり軽自動車でももったいないサイズで、この日常的な自動車交通を超小型の電気自動車でもカバーし、CO₂排出削減につなげたいというのが政策的なねらいです。

電気自動車普及のカギとされる電池性能面で、1回5～10kmという距離は、今の電



海外から輸入されることが多かった2シーターの電気自動車、高齢者専用車のコンセプトに近い

気自動車です。反対に電池性能を落として対応できる距離ともいえ、電池を削減した分、価格も安く提供できるようになります。もちろん、低燃費なガソリン車でもいいのですが、安全基準を整えながら軽自動車以下のクラスができる可能性はあります。

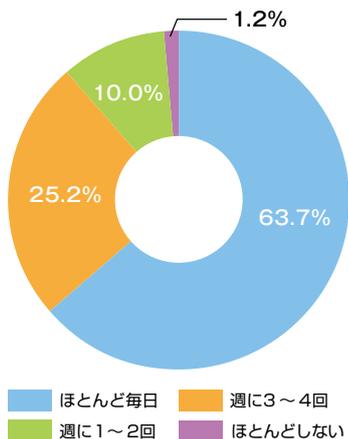
また専門家による委員会でも、高齢者の運転特性の分析が行われた時、事故統計に現れない小さい物損事故なども頻繁に起きてはいるはずだ、との指摘もあります。この種の統計データはないですが、アンケートでは5人のうち4人までが、過去1年間でヒヤリとした経験があると答えています。細かな物損事故はいろいろ起こしている可能性は高いのではないのでしょうか。

これまで自動車整備などアフターマーケット面で、青年から壮年層を主要顧客と考えてきました。このため、高齢者への適切なアプローチは未成熟です。今後、大きくなるシルバー層に向かってどのようなアプローチをするか、NGP協同組合も一緒に考えていきたいと思っています。

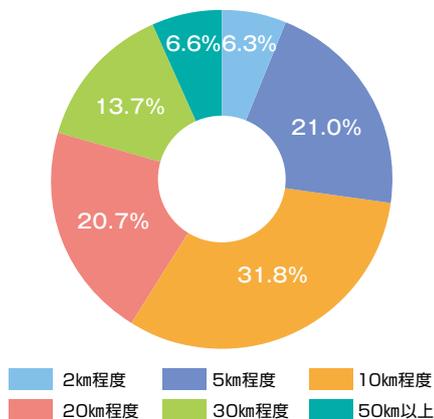
年をとっても「できるだけ運転したい」高齢者は半分以上 的確なアドバイスも自動車点検サービスの一環

高齢者へのアプローチをどうするか、前述の知事連合が行ったアンケート結果からどんな問題を抱えているか、考えてみましょう。高齢者であってもほとんど毎日運転する人は63.7%に達します。また「できる限り運転したい」と52.4%の人が答えています。増加する高齢者ドライバーに的確にアドバイスすることは、自動車点検サービスの延長線にあるのではないのでしょうか。

自動車を運転する頻度



1回の走行距離(家を出て、家に戻るまで)

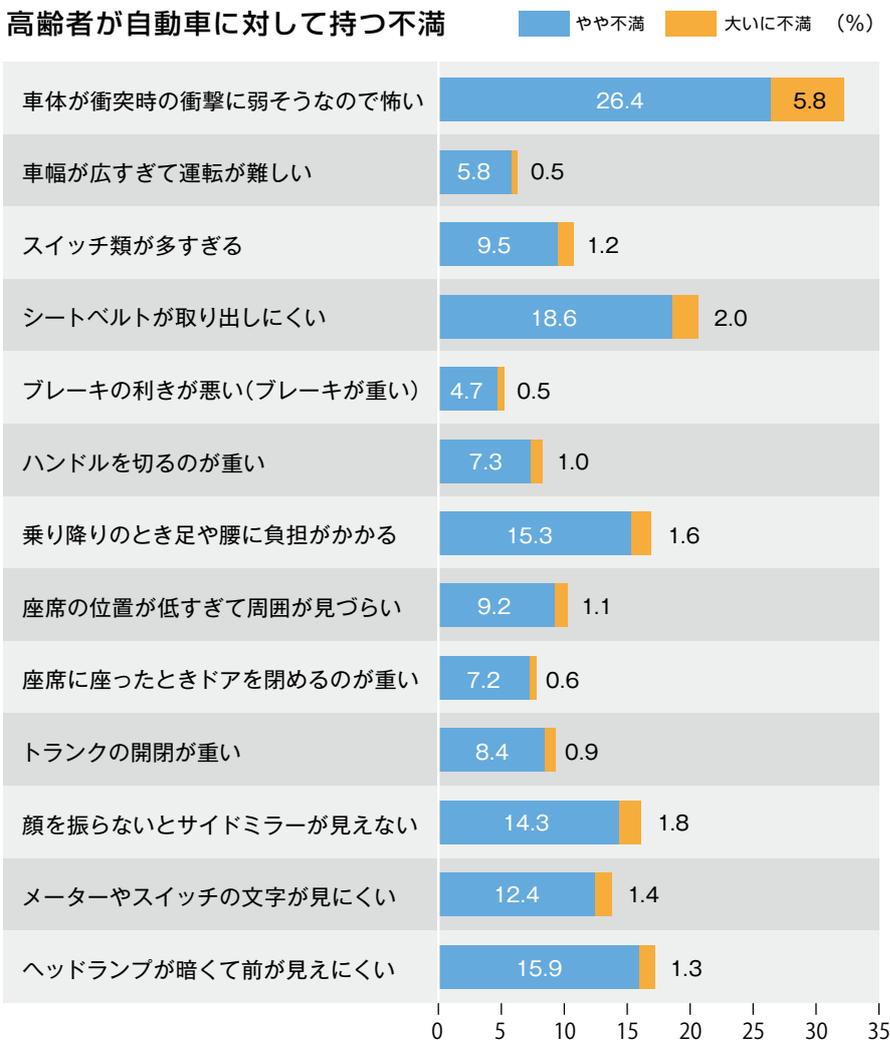


高齢者も、運転頻度は高いです。ほとんど毎日(63.7%)、週に3~4回(25.2%)で9割近くに達します。その利用の目的は「日常の買い物」(76.4%)が最も多く、それに次ぐ「地域活動」(36.5%)、「通院」(35.9%)を大きく引き離しています。

日常生活で自動車を利用するということで、家を出て家に帰るまでの1回当たりの運転距離は短く、10km程度以下が72.5%となります。また家を出て家に帰るまでの運転時間(買い物等の時間は除く)は10分以内32.2%、30分以内39.1%となっており、1回2時間以上運転する人はわずか4.0%に過ぎません。

一方で1日の最大運転距離は「50km以上」との答えた人は62.9%となり、近場での運転だけでなく、ごくたまに長距離を運転するこ

高齢者が自動車に対して持つ不満



ともあるようです。しかし、高速道路に関しては51.7%が「ほとんど利用しない」と回答しています。こうしてみると高齢者にとって基本的に自動車は日常生活の足、このためカーナビなどを勧めても魅力を感じないかもしれません。実際、使っている自動車にカーナビが付いていると答えた人は25.1%で、このうち30.3%が使用していないと答えています。

一方、自動車に対する不満では、「衝突時の衝撃に弱そうなので怖い」という回答が最も多く、次いで「シートベルトが取り出しにくい」「乗り降りするとき足や腰に負担がかかる」「ヘッドランプが暗くて前が見にくい」「顔を振らないとサイドミラーが見えない」といったところに高齢者は高い不満を持っています。

さらに高齢者の8割は夜間や雨の中の運

転で「周囲が見にくい」とか、夜間運転で「対向車のライトがまぶしい」と感じています。トンネルに入った瞬間、周囲が見えにくくなるという人も50%を超えます。加齢とともに動体視力が低下し、視野も狭くなると言われ、この他にコントラスト感度の低下、暗順応の低下、眩惑の増大といった視力の問題が指摘されています。アンケート結果にもこの問題がはっきりと表れています。ヘッドランプやワイパーブレードの点検は欠かせないことのひとつでしょう。

加齢にともなう身体の変化は個人差が大きいです。また、豊富な人生経験を経てきているだけに、確かな人生観と自尊心を持っています。そうした高齢者のプライドを傷つけずに相談に乗ったり、安全運転のアドバイスをしたりすることを心がけたいものです。

東京モーターショー、次回は24年ぶりの都内開催

カロッツェリア部門の追加などの新企画も検討

2011年に開催する第42回東京モーターショーの開催概要が、日本自動車工業会から発表されました。会期は12月2日から11日までの10日間、東京都江東区の東京ビッグサイトで開かれます。会期前の11月30日、12月1日がプレスデー、2日は特別招待日、一般公開は3日からになります。モーターショーは1989年の第28回ショーから千葉市の幕張メッセで開催されており、会場を都内に移すのは24年ぶりです。

昨年の41回ショーは、海外メーカーが相次いでキャンセルしたことをはじめ、国内メーカーの派手な演出もなく、ものさびしい会場風景でした。入場者数も61万人あまりで、07年開催の40回ショーに比べて57%も減少しました。そこで交通の便

の良い都内に会場を移し、ショーの巻き返しを図ることになりました。

キャンセルが相次いだ海外メーカーを呼び戻すために、自工会はインポーターで組織する日本自動車輸入組合（J A I A）に42回ショーの共同開催を呼び掛けている。J A I Aも共催することを前向きに検討していると伝えられています。このほか新しいクルマ文化を紹介するために、低炭素社会の実現に向けた都市システムや情報技術の紹介などを行うとともに手作りカーのカロッツェリア部門も追加するそうです。

気軽に出展というわけにいかないでしょう



「物足りない」との感想が多く聞かれた第41回東京モーターショーだった

が、これはと思う自信があれば、2011年のショーに出展するのにも興がもたせられそうです。42回ショーの出品募集は9月6日から11月12日まで、9月の上旬から中旬にかけて都内で出品募集説明会も開催される予定です。

ELV機構の新体制決まる

大橋理事長が副代表理事に



日本ELVリサイクル機構は5月27日、東京都港区の品川プリンスホテルで平成22年度の定期社員総会と全体集会を開き、ELV機構相談役で東京リサイクル協議会会長を務める栗山義孝氏を新代表理事に選出するなどの新体制を確立しました。また、亡くなられた酒井清行前代表理事を偲ぶ会を同日に開催し、自動車リサイクル業界の代表として活躍した酒井代表理事に参加者全員で黙祷を捧げました。

総会で決まったELV機構の新執行部にNGP協同組合の大橋彦彦理事長が、日本自動車リサイクル部品販売団体協議会（リ協）から推薦された理事として清水信夫り協会長

とともに参画します。大橋理事長はELV機構副代表理事となり、他の3人の副理事長とともに栗山代表理事を支えることになりました。大橋理事長はとくに渉外の役割を担い、使

用済み自動車の判別ガイドライン策定で自動車リサイクル業界を代表した意見を述べるなどの任に当たる予定で、「新しいELV機構を作っていく」と意欲を示しました。



栗山新体制を承認した定期社員総会



故・酒井代表理事の遺影に冥福を祈る

NGP 今月のCO2削減量



リサイクル部品利用にともなう削減効果

NGP 22年4月: **6,631 t** NGP 1月からの累計: **26,307 t** (全12団体 1月からの累計 **45,792t**)

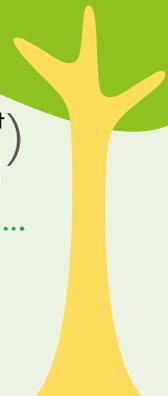
※ NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



リターナブル梱包材利用にともなう削減効果

NGP 22年4月: **9.4 t** NGP 1月からの累計: **31.1 t**

※ リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出削減の取り組みです。ダンボールに変えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。



第20回基礎研修会を開催

厳しい試験に合格し、83人がNGPに仲間入り

第20回基礎研修会が4月22～25日の日程で東京・夢の島にあるBumB東京スポーツ文化館で開催されました。寒の戻りや雨という悪いコンディションのなか、全国から集まった83人が厳しい訓練に耐えて無事合格、晴れてNGPマンの仲間入りをしました。

徳島オートパーツの山内裕子さんは「雨の中励んだ苦しい、厳しい訓練が終了し、何か寂しい気持ちになった自分に驚きました。寒い中、愛情のある指導をしていただいた講師の方々と離れるのが嫌で、苦しくなりました。こんなに自分を強く変える訓練は実業団にいた時以来で、忘れかけていた気合いや気力、気迫を思い出しました」。またライラッ

ク車輛の高田尚典さんは「自分を変えようとして一つにまとまった時の絆が大きな山を乗り越える力になると思いました。私たちが自分の弱さに気づき、このように変わることができたのは講師のおかげです。講師が全力だったからこそ、私は限界を超えるものを出すことができました」と振り返ります。

桃太郎部品の池田喜彦さんは「本気で気持ちを入れてやっても気を抜くとすぐに忘れしまい、出来なくなります。せっかく良いことを学んでも活かすことができなかつたら4日間のつらかった研修も無駄になってしまいます」と、最終日に気の緩みを指摘されたことで新たな気づきにつながりました。

体調を崩した人も出たほどで、ウエイク

パーツの多田佳弘さんは「自分は何度もテストを受けようとしたが、結局は応援することしかできず、本当に情けない気持ちになりました。そしてテストに合格した皆さんに支えられ、これが団結の力なのだとか心から涙があふれ出しました」と話します。今回もいろいろなドラマがありました。

そして大友自動車工業の横田俊行さんのように「基礎研修会で学んだ協調性、自分に自信を持つ、気持ちを込めた挨拶をもっと大きなものにして、どんな困難にぶつかってもその壁を乗り越えて、会社の発展に貢献していきたい」と全員がNGPマンとしての前向きな姿勢を形作ることができた基礎研修会でした。



厳しい訓練に耐えて83人の新NGPマン誕生



合格で思わず涙があふれ出す



各班代表が明日の決意を表明

第8回ハイブリッドカーセミナー、第5回生産STEP UP研修会開催

エコカー対応と品質強化を目的に技術力をアップ

NGP協同組合は静岡県裾野市のあいおい東富士研修センターで第8回ハイブリッドカーセミナー(5月24、25日)、第5回生産STEP UP研修会(5月25～27日)を連続開催しました。ハイブリッドカーセミナーは、NGP協同組合のハイブリッドカーへの対応力をつけることを目的に積極開催しています。

ハイブリッドカーセミナーを受講して電気の怖さと注意点を学んだ安澤商店の安澤博文さんは「面倒でもメーカーがホームページ上で公表するマニュアルを確認してから作業に当たることが作業事故や部品を販売した後のクレームを防ぐ一番の方法だと思います。他の社員にもこのことを伝え、セミナーにも参加させたい」と、また大橋商店の山下和也さんは「実際に使う場面に遭遇したくないので

すが、救急処置の講習は現場作業に従事する者として、また子を持つ親として大変良い体験をさせていただきました」と話しています。

生産STEP UP研修会に参加したアール・トーヨーの小川哲也さんは「内部構造が分かっていないため原因究明は無理と思って廃棄していたクレーム品を、研修で得た知識を生かして分解、原因を究明し、より良い商品を生産できるように努力します」と積極的



エコカーの普及でHVの対応力強化は必須課題に



部品生産の品質アップのためにSTEP UP研修で知識を吸収

です。また、西日本オートリサイクルの木下彰さんは研修でABSのON、OFFの状態の違いを実体験し、「研修の内容は普段の業務で考えたこともなかったのですが、解体作業に必要な知識なのだということを実感しました」と技術知識の必要性を痛感しています。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201